

# 地域

各種



子どもから大人  
発表したコミュ



文化功労賞で表彰された(前列  
左から)洲鎌さんと仲間さん



善行児童生徒に選ばれた

PVエコキュート

## 普及事業戸建向け展開

### EMS実証推進委で報告



EMS実証事業について意見を交わす委員たち  
=市中央公民館

宮古島市(下地敏彦市長)が、導入している市営住宅で太陽光発電及び電気式給湯器を含めたエネルギー貯蔵可能な機器を組み合わせたサービスを入居者に提供する「PVエコキュート普及事業」に加えて次年度からは新たに一戸建も対象にした事業を展開することが4日、分かった。同日行われた2018年度宮古島市全島EMS実証事業第1回推進委員会で取り組み状況などが説明された。

委員会では議題に▽PVエコキュート普及事業▽スマートコミュニティ実証事業▽市民ファンド形成検討▽クラウド制御システムーなどの状況説明や進捗報告

が行われた。このなかで「PVエコキュート普及事業」として事業者となる民間企業の宮古島未来エネルギーが「この制度は環境省の補助金を前提に事業者となる民間企業の宮古島未来エネルギーが太陽光パネルや蓄電池、給湯器『エコキュート』等の設備を設置・運用するとともに入居者への温水供給、太陽光の余剰売電を行う」などと説明したうえで、設備の設置や管理費用を支払う必要がなく、従来のガス料金に比べて安価な温水料金を支払うことになったため、コスト負担やリスクを負うことなく生活コストを削減できることなどを強調した。

一方、事業者は設備の一括大量調達などにより低コスト化を実現。設置された住宅には宮古島未来エネルギーから2カ月に1度の点検・検診があるが故障リスクも分散化できるためメリ

ツトが大きいという。導入検討チェックで各項目に答えることで自分に合った4つのプランを選択することが可能(※条件を満たさない場合は契約できない場合もあり)となっている。蓄電池も設置されるプランでは停電時でも蓄電池

からの電力供給が可能で、台風接近時はリモート制御で可能な限り満充電待機とするという。加入申し込みは10月からスタートしており、19年度で1000戸、2000戸(4つのプランを合わせて)を目指して展開していく。

## 車エビ30ト見込む

### 宮古島漁協 市長に出荷状況など報告



っかりすれば漁協の業  
だいぶ回復すると思う

宮古島漁業協同組合(会長 正司組合長)が3日、市役所平良庁舎に下地敏彦市長を訪ね、同漁協が行っている車エビ養殖事業の車エビの出荷を報告した。今期の「5月下旬ごろまでに30トを見込んでいます。今は1日200トを出荷しています。前年は病気が発生したが今年は大丈夫との検査結果を受けている」などと説明。下地市長は「車エビがし



ロクムや会場につ  
記者会見を行い、大勢  
場を呼びかけたII写  
会見には同会の池間